

コリント人への手紙第一 14:1-12 賜物が教会を成長させる

第一コリント 14 章では、引き続き霊的な賜物について見ていきたいと思えます。パウロは 12 章で様々な賜物について取り上げ、13 章ではその中でも重要な賜物である愛について 13 章で触れました。そして 14 章では、一つの賜物のみについてではなく、預言と異言という二つの賜物について取り上げています。ですが、その中には自分の賜物をどのように用いるかについて、私たち全員に当てはまる最優先すべき原則があります。まず、その要点をお伝えしたいと思います。それは、賜物は個人ではなく、教会を成長させるために用いられるべきだということです。第一コリント 4:1-12 をまず読んでから、それらの賜物とは何か、このことが現代の私たちにどのように当てはまるのかをお話ししたいと思います。では、14 章をお読みします。

「1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。2 異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。3 しかし預言する人は、人を育てることばや勧めや慰めを、人に向かって話します。4 異言で語る人は自らを成長させますが、預言する人は教会を成長させます。5 私は、あなたがたがみな異言で語ることを願いますが、それ以上に願うのは、あなたがたが預言することです。異言で語る人がその解き明かしをして教会の成長に役立つのでないかぎり、預言する人のほうがまさっています。6 ですから、兄弟たち。私があなたがたのところに行って異言で語るとしても、啓示か知識か預言か教えによって語るものでなければ、あなたがたに何の益になるでしょう。7 笛や豎琴など、いのちのない楽器でも、変化のある音を出さなければ、何を吹いているのか、何を弾いているのか、どうして分かるでしょうか。8 また、ラッパがはっきりしない音を出したら、だれが戦いの準備をするでしょう。9 同じようにあなたがたも、舌で明瞭なことばを語らなければ、話していることをどうして分かってもらえるでしょうか。空気に向かって話していることになりません。10 世界には、おそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばは一つもありません。11 それで、もし私がそのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。12 同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。」

この議論に先立ってまず目に留まるのは、重要な賜物である愛です。パウロも、そして当然ながら私たち皆が、他のどんな賜物よりも愛が増し深まるよう努めるべきであることを、これ以上強調することはできません。この箇所に記されていることは全て、これらの賜物が教会の成長のためにあるのだという真理を示している以上、これは重要な事です。それ以外の賜物、特にパウロがここで取り上げている二つの賜物についての議論に進む前に、パウロが言っているように、キリストにある兄弟姉妹を愛すること以上にキリストの体に一致をもたらし、教会を強める賜物は他にないことを再認識する必要があります。自分に与えられている他の賜物に目を向ける前に、私たちは愛の賜物を求めているかどうかを自らに問う必要があります。

その質問にはっきり YES と答えられるなら、その他の賜物に目を向けることができます。パウロは、特にここで教会において混乱や意見の相違があつたであろう、預言と異言という二つの賜物について触れています。これら二つの賜物の比較から、それらの賜物についてより深く知り、今日の教会にもそれらの賜物が与えられているとすれば、どう用いればよいのかを学ぶことが出来ます。パウロはまず、二つの賜物の受けてについて比較しています。異言は神に向けられたものであると述べています。それは異言が聖霊によって与えられた言葉なので、誰も何が語られているのかを理解できないからです。2 週間前に、聖書では異言の賜物について二つの種類が書かれていることをお話しました。パウロがここで言及しているのは神に向かって語られる霊的な言葉で、その言葉を解釈できる人でなければ理解できないものです。使徒の働き 2:4-5 では異言の賜物について別の様子が描かれています。「4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、6 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。」

これが異言のもう一つの種類です。おそらくアラム語であったと思われるが、一人の使徒がある言語で語ったことを、その他の人がさもそれが自分の母語かのように理解できたのです。これは誰も理解できない霊的な言語話すのとは違います。パウロがここで異言と言っているのは理解のできる言語ではなく、明らかにそのような言語です。霊的な言語は神に話すために与えられるのですから、異言の賜物の受け取り手は神です。預言はどうでしょうか。預言は特に他の人々に向かって話すことです。3節に「しかし預言する人は、人に向かって話します。」とあります。ここで指摘しておかなくてはならないことは、異言の賜物を使う人を批判している訳では決していないということです。パウロはただ、この二つの違いを指摘しているだけです。そして、その違いの二つ目として、それぞれの賜物の恩恵を得るのは誰かという事を指摘しています。4節は「異言で語る人は自らを成長させますが、預言する人は教会を成長させます。」と書いています。預言は他の人に語りかけるものですから、その人たちを成長させます。けれども、異言は神に向けられたものであり、聖霊が異言を語る人のうちに働かれるのですから、聖霊が働いて異言を語らせている人には明らかに恩恵がありますが、周りにいるものが恩恵を受けることはありません。繰り返しますが、パウロがこのことに否定的な判断をしているのではなく、単に二つの違いを指摘しているだけです。とはいえ、第一コリントでパウロが焦点を当てているのは、教会の健全さと体としての一致であることを忘れてはいけません。実際に12節の締めくくりに「教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。」と書いています。であれば、異言よりも預言の賜物の方がより良い訳です。それだけは明らかです。2週間前にリチャード・ブレイロックによる預言の定義をご紹介しましたが、それを要約すると「神が人々に明確な指示を与えるために、ある人を通して直接語ること」と言えるかと思います。つまり、この賜物を通して、神が直接人々に語られるということです。今日、私たちは神の完全な啓示を、神のみ言葉である聖書と言う形で持っています。ですから、この預言の定義から、聖書が今や教会にとっての預言の主な源であるといっても間違いではないと思います。教会では、神のみ言葉を通して互いを高め合うために、神のみ言葉を互いに語る、つまり預言するべきです。

パウロが預言と異言の違いとして3つ目に挙げているのは、メッセージの明瞭さです。誰と話し、コミュニケーションを取ろうとしても、そのメッセージの明瞭さ、分かりやすさが重要です。人と話す際、コミュニケーションの行き違いを誰しも経験したことがあるかと思います。結婚している人なら誰でも一度は、どちらかが相手の言っていることを誤解して夫婦喧嘩をしたことがあるのではないのでしょうか。仕事場においても、意思疎通が曖昧だと無駄な努力をしまったり、目標を達成できなかつたり、感情を傷つけてしまったりということに繋がりがねません。ですから、教会でも神のメッセージが明確であることが望ましい訳です。この世の究極の存在でおられる神が語られることは、最も重要なメッセージですから明確でなくてはなりません。この二つのうち、預言に比べて異言の賜物は明確なメッセージではないとパウロは言っています。ただ、決して異言で話すなど言っているわけではありません。5節では実際「あなたがたがみな異言で語ることを願います」と言っています。ですが、続けて「それ以上に願うのは、あなたがたが預言することです」とあります。はっきりしないのは、この二つの賜物が教会の益のためにどのように用いられるのかです。どちらの賜物も教会の益となりますが、預言はより直接的で、語られている真理を伝えるために他の助けを必要としないことに注目してください。5節の終わりにそのことが書かれています。「異言で語る人がその解き明かしをして教会の成長に役立つのでないかぎり、預言する人のほうがまさっています。」異言の賜物が教会の益となるためには、異言の解き明かしという別の賜物が更に必要です。つまり私たちと神との間に一人の人を介したコミュニケーションではなく、二人の人を介したコミュニケーションなのです。もちろん、解き明かしには聖霊が力を与えてくださいます。ですが、たとえそうだったとしても、預言の方がより直接的と言えます。皆さんは伝言ゲームをしたことがあるでしょうか。一人の人に文章やフレーズが与えられ、それを覚えて後ろの人に伝えます。多くの人に参加すればするほど、メッセージはより不正確になってしまうため、大抵何人か目にはメッセージが変化してしまいます。もちろん、もし預言にせよ異言にせよ語っておられるのが聖霊であれば、そのメッセージ自体間

違えない真理です。聖霊なる神ご自身が人間の筆者を通して語られたのだから、聖書が間違えないものだと言えるのもそのためです。ですから、未知の天の言葉である異言よりも、預言のように直接的で既知の言葉によるコミュニケーションの方が良いのです。また預言だけではありません。6節ではどのような賜物が明確な真理を伝えることができるかについて預言に加えて、啓示、知識、教えにも言及しています。パウロは、なぜ異言がコミュニケーションの手段として不明瞭なのかを示すため、それを楽器に例えて更に説明しています。笛や豎琴、ラッパを挙げています。どの楽器も非常にはっきりとした音を奏することができますが、私のように音楽的な能力の無い人間が適当に奏でも雑音にしかありません。ラッパは当時の軍隊において非常に重要でした。20世紀初頭までの長い間、戦いの最中にある軍隊に合図するため、ラッパやそれに似た類の楽器が使われていました。戦いの最中に声が届くことはありませんが、はっきりとしたメロディーを奏する大きな角笛の音は、方向転換や攻撃、撤退の合図など様々な命令を伝えることができました。明瞭であることが極めて重要でした。神からのメッセージも明瞭であることが極めて重要です。預言も、既知の言語で話すことを伴うその他の賜物も、神のメッセージを明確に伝えることができます。そうでなければ9節にあるように、「空気に向かって話している」ようなもので、誰も耳を傾けません。

この二つの賜物の間には、預言が異言に勝る賜物であることに繋がる4つ目の違いがあります。それはそれぞれの賜物がもたらす人との繋がりです。10-11節を見て下さい。「10 世界には、おそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばは一つもありません。11 それで、もし私がそのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。」YIBCに集う私たちは、パウロがここで述べている様々な言語間の難しさをよく理解できます。私たちの教会には、英語、日本語、中国語、タガログ語、フランス語、韓国語、他にもいくつか取りこぼしているかも知れませんが様々な言語を話す兄弟姉妹がおります。これらの言語間のコミュニケーションは難しいこともあります。感謝な事に皆さんの多くは、私よりはるかに上手に2か国語、あるいは3か国語がおできになります。日本語でうまくコミュニケーションができないことで、どれだけもどかしい思いをしたことか。ありがたいことに神は私たちの教会に日本語を話せる他のリーダーを与えてくださっていますし、御心であれば長老も与えられるでしょう。ですが、こうした言語の壁によって深い部分で繋がる事が出来ずに、国籍の違う者同士が互いに距離を置く要因となってしまいます。それこそ預言に使われる人の言葉ではなく、異言が使われると起こることと言えます。また霊的には互いをキリストや教会に在って外国人としたくはありませんから、互いと繋がり、キリストに在る兄弟姉妹となるために、明確なコミュニケーションをとりたいのです。

これら全ての点から、パウロが異言の賜物よりも預言の賜物の方が、教会を成長させるという目的をより満たすのだから望ましいと言っていることが分かります。12節はそのように締めくくられています。「12 同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。」ですから、聖霊を超自然的に体験することや異言の賜物を望むことは間違いではありません。ですが、どのような賜物であれそれが与えられることや強められることを求めるなら、私たちの願いはそれを通して教会が成長することであるべきです。では、キリストの体を建て上げるという以外に、このことは私たちにどのような意味を持つのでしょうか。聖書は教会の成長のために求めるべき賜物が異言でないことを明らかにしていますし、預言の賜物は聖書が黙示録で終わっている今日、与えられていないように思えることを説明しました。そこで話を先ほど触れたことに戻したいと思います。私たちは互いに神のみ言葉を語るとき、預言しているのです。それはどのように働くのでしょうか。私たちはみ言葉で互いを励まし合うのです。人生で直面する状況への答えを神のみ言葉の内に求め互いに示し合うのです。これは3節の「しかし預言する人は、人を育てることばや勧めや慰めを、人に向かって話します。」という言葉に説明されています。愛をもって互いに励まし合い、高め合い、慰め合うことが私たちの目標です。そのためには、互いの置かれた状況にあってみ言葉に聞き、その真実を適用することを互いに助けることが最善の方法です。以前にもおすすし

た本ですが、もし皆さんがよりそうなりたいと願われるなら、ポール・トリップの「互いに助け合うために」を強くお勧めします。階段の踊り場にある本棚には、日本語と英語の本がまだ数冊ございます。最終的にこれらの霊的賜物が私たちにもたらすものは、エペソ 4:13 に「私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり」とあるように、キリストの体の内にある一致です。主の晩餐に与るたび、私たちはこの一致が主に象徴するところに戻ります。それは、私たち皆が罪人であり、イエス・キリストの死の犠牲のみが唯一の希望であるという点において一致を示します。もしあなたがイエス・キリストをご自分の主として、救い主として受け入れておられ洗礼を受けておられるなら、この主の晩餐にどうぞご参加ください。準備ができていないお子さんがおられる方は、この晩餐の重要性を示すためにお子さんを参加させないことが最善です。私が祈りました後、執事が礼拝堂の四隅で個包装されたパンとジュースをお配り致します。その後で共に晩餐に与りましょう。祈ります。

1 Corinthians 14:1-12 Gifts Build the Church

We are continuing to explore spiritual gifts as we begin 1 Corinthians 14. Paul has gone from lists of gifts in chapter 12 to focusing on one primary gift, love, in chapter 13. Now in chapter 14, he widens the focus just a little bit from one gift to really focusing on just two gifts, prophecy and tongues. But in this discussion, there is an overriding principle that applies to all of us in the way we use our gifts. I will tell you the main point right up front. Gifts are to be used to build up the church, not any individual. I want to read this whole passage, 1 Corinthians 14:1-12, and then talk about what these gifts are and how this applies to us today.

Let's begin reading chapter 14. **14 Pursue love, and earnestly desire the spiritual gifts, especially that you may prophesy.** ²For one who speaks in a tongue speaks not to men but to God; for no one understands him, but he utters mysteries in the Spirit. ³On the other hand, the one who prophesies speaks to people for their upbuilding and encouragement and consolation. // ⁴The one who speaks in a tongue builds up himself, but the one who prophesies builds up the church.⁵ Now I want you all to speak in tongues, but even more to prophesy. The one who prophesies is greater than the one who speaks in tongues, unless someone interprets, so that the church may be built up. // ⁶ Now, brothers,^[a] if I come to you speaking in tongues, how will I benefit you unless I bring you some revelation or knowledge or prophecy or teaching? ⁷ If even lifeless instruments, such as the flute or the harp, do not give distinct notes, how will anyone know what is played? ⁸ And if the bugle gives an indistinct sound, who will get ready for battle? // ⁹ So with yourselves, if with your tongue you utter speech that is not intelligible, how will anyone know what is said? For you will be speaking into the air. ¹⁰ There are doubtless many different languages in the world, and none is without meaning, ¹¹ but if I do not know the meaning of the language, I will be a foreigner to the speaker and the speaker a foreigner to me. ¹² So with yourselves, since you are eager for manifestations of the Spirit, strive to excel in building up the church.

Right away we see the primary gift, love, before any other discussion. Paul and therefore, we, cannot say it any more strongly that love is the gift that all of us should strive to increase and improve at ahead of all other gifts. This is important since everything in this text is pointing us to the truth that these gifts are intended to build up the church. Before we move on to the discussion around other gifts, specifically the two Paul addresses here, we need to reiterate as Paul does that there is no gift that you can bring to the church that will do more to affect the unity and strengthening of the Body of Christ than loving your brothers and sisters in Christ. Before we focus on any other gift we have, we need to ask ourselves one question, are we pursuing love?

Once you can answer that question with a resounding yes, then we can focus on the other gifts. Specifically, Paul addresses two gifts here that were possibly issues of confusion or disagreement in the church – Prophecy and tongues. In his comparison of these two gifts, we learn more about these gifts and how to apply them if they are active in the church today. **The first contrast Paul makes is between the recipient of the two gifts.** He describes Tongues as being directed towards God. The reason he gives is that no one can understand what is being said because it is language that is given by the Holy Spirit himself. I mentioned two weeks ago that the Bible describes two versions of the gift of tongues. This one that Paul has in mind here is a spiritual language that is directed towards God using language that is only understandable with

someone who can interpret what is said. [Acts 2:4-5](#) describes a different scenario using the gift of tongues. [4And they were all filled with the Holy Spirit and began to speak in other tongues as the Spirit gave them utterance. 5Now there were dwelling in Jerusalem Jews, devout men from every nation under heaven. 6And at this sound the multitude came together, and they were bewildered, because each one was hearing them speak in his own language.](#)

This is the other version of tongues. An apostle speaking in one language, likely Aramaic, is understood by those who speak other languages as if they themselves are speaking that language. This is different than speaking a spiritual language that no one can understand. In Paul's description of tongues this is clearly what he has in mind, not languages that could be understood. So, for tongues God is the proper recipient of that gift as spiritual language is given to speak to God. So, what about prophecy? Prophecy is specifically speaking to other people. Verse 3 says **On the other hand, the one who prophesies speaks to people...** I need to point out here that there is no judgement at all on those using the gift of tongues. Paul is simply pointing out the differences between the two. **And the Second difference he points out is who gets the benefit from each gift.** Verse 4 says, **4 The one who speaks in a tongue builds up himself, but the one who prophesies builds up the church.** Due to the nature of prophecy speaking to other people, it builds up those people. But also due to the nature of tongues being directed towards God and the Holy Spirit working in the person speaking in tongues, there is a definite benefit for the person the Holy Spirit is speaking through, but not anyone around them. Once again, this is not a negative judgement on the part of Paul, but simply pointing out the differences between the two. That being said, we need to remember that Paul's focus throughout the book of First Corinthians is on the health and unity of the church as a body. He actually ends the section by saying in verse 12, **strive to excel in building up the church.** So, prophecy does that better than the gift of tongues. That much is clear. If you recall, two weeks ago, I gave you a definition of Prophecy from Richard Blaylock, which I would summarize as **"God speaking through a person in a direct way to give clear instruction to other people."** So, the point is God speaking directly to his people through this gift. Today, we have God's completed revelation in the form of God's Word, the Bible. I don't believe I am incorrectly applying this idea of prophecy to say that the Bible is now the primary source of prophecy to the church. So, in the church, we should be speaking God's Word, prophecy, to each other in order to build each other up through the Word of God.

The third difference between prophecy and tongues that Paul makes here is the clarity of the message. No matter who we are talking to and communicating with, it is important that there is clarity or clearness in that message. We have all probably experienced miscommunication that happens when we talk to another person. I'm sure that all of us who are married have at one time or another have had an argument with our spouses because one of us misunderstood what the other was saying. In the work environment, unclear communication can lead to wasted effort, goals not achieved and hurt feelings. So, in the church, we want God's message to be clear. He is the ultimate being in the universe, so what he says is the most important message to be clear about. Between the two, Paul says that the gift of tongues does not give a clear message, compared to Prophecy. I need to point out again though, that he never says not to speak in tongues. Verse 5 actually says, **"I want you all to speak in tongues,"** but of course it continues with, **"but even more to prophesy."** The unclearness comes with how

the two gifts are exercised for the benefit of the church. Notice that both gifts can be used to benefit the church, but prophecy is more direct and doesn't need any secondary way to communicate the truth that is being spoken. The end of verse 5 shows us this. ...**The one who prophesies is greater than the one who speaks in tongues, unless someone interprets, so that the church may be built up.** You need the additional spiritual gift of an interpreter for the gift of tongues if it will benefit the church at all. So, the communication is not just secondary, but actually tertiary as now the communication is between God, one human, and then another human. Although of course the Holy Spirit is involved empowering the interpretation as well. But even if that occurs, prophecy is more direct. **Have you ever played the telephone game? One person received a sentence or phrase to remember and then pass on to the person behind them. Usually by the time it gets just a few people down the line, the message has already changed, because the more people involved, the less clear the message becomes.** I do want to be careful to say that if the Holy Spirit is the one speaking through either prophecy or tongues, then the message itself is truth without any mixture of error. That is why we can speak of the Bible as being inerrant, since it was God the Holy Spirit himself who inspired the human writers. So, communication in direct known language like prophecy is better than tongues, an unknown heavenly language. And it is not just prophecy...verse 6 connects the idea of revelation, knowledge and teaching as well as prophecy in what types of gifts can convey clear truth. Paul goes further with his teaching of why tongues is unclear at communication by comparing it to instruments. He brings up the flute and harp and bugle. All of those can make very clear distinct notes, but they can also just make noise if they are just randomly played by someone like me with zero musical skill. And the bugle is extremely important to the armies of that time. All the way through the early 20th century, a bugle or similar instrument was used to give loud signals to troops in combat. A voice would never be heard above the conflict of battle, but a loud horn playing a distinct melody could signal a directional move or a signal to attack or to retreat or any other number of commands. It was extremely important that it be clear. And for a message from God clarity is extremely important. Prophecy and even other gifts that involved speech in known language give that clear communication of God's message. Anything else is as verse 9 says, just **"speaking into the air..."** with nobody listening.

And there is a **fourth difference between these two gifts that leads to prophecy being the greater gift than tongues. That is the connection that each gift makes with others.** Look at verses 10-11. **10 There are doubtless many different languages in the world, and none is without meaning, 11 but if I do not know the meaning of the language, I will be a foreigner to the speaker and the speaker a foreigner to me.** Here at YIBC, we can very well understand the difficulty that Paul brings up here between various languages. We have brothers and sisters in our church who speak English, Japanese, Chinese, Tagalog, French, and Korean, and I might be missing a couple. Communicating between these languages can be difficult. Thankfully, many if not most of you are far more bi or even trilingual than I am. I cannot tell you how frustrating it is to me that I cannot communicate better in Japanese. Thankfully God has placed other leaders and Lord willing soon, other Elders who can speak Japanese in our church. But these language barriers at some level keep those of different nationalities separate from each other because we can't connect at a deep level because of the language barrier. That is essentially what happens when tongues are used instead of human language used in prophecy. And at a spiritual level, we do not want to keep each other as

foreigners to Christ and to the church, so we want to clearly communicate to connect with other people and see them become brothers and sisters in Christ, not foreigners.

Given all these statements, it is clear that Paul is saying that the gift of Prophecy is more desirable than the gift of tongues, because it best fulfills the goal of building up the church. That's how he ends in verse 12. **12 So with yourselves, since you are eager for manifestations of the Spirit, strive to excel in building up the church.** So, it is not wrong to desire the supernatural experience of the Holy Spirit, even the gift of tongues. But whatever gift we desire to have and see increase in our life, our desire should be that it enables us to better build up the church. So, how does this apply today, besides that general application of building up the body of Christ? Since the Bible makes clear that the gift of tongues is not the gift to seek in building up the church, and I have explained that the gift of prophecy does not seem to be active today, since the closing of the Scriptures with the book of Revelation, then I want to return to what I mentioned earlier. Whenever we are speaking God's Word to each other, we are speaking prophecy. So, how does that work? It means that we encourage each other with Scripture. We point each other to the Word of God for answers to situations we face in our life. This goes back to verse 3 that says, **the one who prophesies speaks to people for their upbuilding and encouragement and consolation.** That is our goal to encourage each other, build up each other, console each other in love. And the best way to do that is helping each other hear and apply God's Word to what we are going through. I have recommended this book before, but if you want to become better at this would strongly recommend *Instruments in the Redeemer's Hands* by Paul Tripp. We still have some copies in Japanese and English on our bookshelf in the stairwell.

Ultimately, what all of these spiritual gifts are leading to is unity within the body of Christ as **Ephesians 4:13 says, 13 until we all attain to the unity of the faith and of the knowledge of the Son of God...** Every time we come to the Communion Table for the Lord's Supper, we are coming to the central point and primary symbol of our unity. It demonstrates our unity in that we are all sinners whose only hope is the sacrificial death of Jesus Christ. If you have accepted Jesus Christ as your Lord and Savior and been obedient through baptism, then I invite you to join us in this Lord's Supper meal. If you have children who are not ready then the best way to show them the importance of this meal, is to not let them participate. After I pray, the Deacons will distribute the prepackaged elements from the four corners of the Sanctuary, and we will eat and drink together. Let's pray.